

江戸後期の都の流行絵師20名が競作し、 宮津進出のきっかけとなった大作。



観音像図・部分

てんじょうが「しほんちゃくしょくそうかず」 天井画「紙本著色草花図」二十面 門山応瑞筆ほか <智源寺 本堂>

智源寺は宮津城下京街道に面しており、寛永2年(1625)に宮津藩主京 極高広が生母惣持院殿松渓智源寺禅尼の菩提を弔うため、舞鶴桂林寺 十世の心庵盛悦(しんあんせいえつ)を招じて開いた曹洞宗寺院です。文 化元年(1804)に再建された本堂の天井に、当時京都で活躍していた20 人の絵師が彩管を揮いました。円山派の当主である円山応瑞などの円山 派と四条派を中心とする当時の都の流行絵師による競作で、宮津におけ る活動を最も象徴的に物語っており、京都画壇が宮津へ進出するきっか けとなった作品です。【京都府指定文化財】

本堂天井画「紙本著色草花図」 (問)智源寺 TEL.0772-22-2604

絵師たちの息づかいが聞こえてくる、丁寧かつ巧みな人物描写。

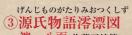


五条大橋牛若弁慶図

ごじょうおおはしうしわかべんけいず ②五条大橋牛若弁慶図 絵馬・一面 横山華山筆 <和貴宮神社 拝殿>

この絵馬は、牛若と弁慶の場面が舞台の 1 シーン のごとく捉えられ、描かれています。横山華山は人 物画を得意とした京都画壇の絵師で、岸駒の門人で あり、智源寺の天井画を描いた一人でもあります。 また当神社には、同じく天井画を描いた四条派であ る松村景文の門下の松川龍椿 (まつかわりゅうち ん)筆「趙雲図絵馬」を見ることができます。

(問)和貴宮神社 TEL.0772-22-2773



襖・八面 佐藤正持筆 <佛性寺 本堂>

佐藤正持は江戸の民間画壇の一人です。時の 藩主であった本庄宗秀に招かれ当地に逗留 し、山王宮日吉神社の「山王社祭礼図絵馬」を はじめ多くの大作を遺しました。また、正持は 日吉神社の牧氏と親交が厚く、宮津での作画 依頼も多く「源氏物語澪漂図」は大画面の力 作とし注目されます。

(問)佛性寺 TEL.0772-22-4028



紙太著色三十六歌仙図展風·部分

源氏物語澪漂図・部分

にちれんしょうにんざぞう 5日蓮上人坐像 日朗上人作

<妙照寺 本堂>

妙照寺は宮津寺院の中で最も古く由緒のある寺で、堂 内には古い仏像などが数多くあります。その中の日蓮 上人坐像は、開祖日蓮の高弟である日朗上人の作と言 われています。ヒノキ材の寄木造で、本像は開山日養が 身延山から丹後に来往した際に抱えて来たと伝えら れ、これは像内胸部に記された宝徳3年(1451)の日養 による墨書銘からも裏付けられます。[宮津市指定文化財]



さんじゅうろくかせんずびょうぶ 三十六歌仙図屏風 筆者不明

<妙照寺書院玄関>

この屛風には一扇に3人ずつの歌人を配し、六曲一双 屏風で三十六歌仙が描かれています。作者、制作時期 とも不明ですが、大和絵風の人物描写から、かなりの力 量を持った絵師により描かれたものと考えられています。 人物の上部には、歌人の名と歌が書かれており、書の 方も見るべきものがあります。

(間) 妙照寺 TFI 0772-22-2996



かんのんぞうず ④観音像図

掛幅・一幅田能村直入筆 <栄照院 本堂横客間>

栄照院は、寛永 19年(1642)に藩主京極高広の家 臣落合蔵之介が母親の追福のために開いたと伝 わる寺です。本堂横の客間では、幕末から明治時 代にかけて活躍した田能村直入筆「観音像図」や 宮津出身の絵師、和田屏山筆「竜虎対幅掛軸」など 多くの秀作を見ることができます。田能村直入は 京都に南画を伝えたといわれ、幼少の頃より田能 村竹田の竹田荘に入塾し、画才を認められました。 大坂、さらに明治維新後京都に移り、京都府画学

校の設立に尽力しました。 (間) 栄解院 TFI 0772-22-2568



6 御霊屋<大頂寺本堂奥>

大頂寺は、慶長11年(1606)、京極高知により犬の堂山 上に香華所として建立されました。その後、子の高広の 代に妻の寿光院の養父である徳川秀忠および家光、 家康の法楽のため、寛永年中(1624~44)に現在地に 移したと伝えます。また、本堂南に付設する本庄家御霊 屋は総漆塗りの荘厳な造りで、宝暦8年(1758)に入部 した本庄松平氏の遠祖桂昌院(5代将軍綱吉の生母) の念持仏と、本庄家歴代の位牌が安置されています。 また、本堂北側には、初代徳川家康公から6代家宣公 までの歴代徳川将軍家のご位牌が祀られています。 [宮津市指定文化財]

(問)大頂寺 TEL.0772-22-3340



か

の治

0

■観光施設 P駐車場 WCトイレ

♥ バス停 優レンタサイクル

文化財散策コース

師



「お願い

※社寺の関係者が不在の場合、本堂等を含め室内に展示して あります、絵画等の文化財を観ていただくことができません。参 能された際に、社寺の関係者へお声をお掛けください。

※法事等の行事が行われている場合、ご覧いただけない場合が

※国清寺を拝観される場合は事前にTEL.0772-22-3523までご 確認ください

※如願寺・山王宮日吉神社・和貴宮神社は、拝観時間はありませ んので、自由に散策してください

◎平成21年3月末までの期間限定で、旧三上家住宅を観覧した 観光バスの駐車料金(昼間)は無料になります。



龍、虎、花、鳥…。 宮津で出会う、動と静の美空間。

てんじょうが「うんりゅうず」 7天井画「雲龍図」和田屏山筆 <経王寺 本堂>

和田屏山は、宮津に生まれ育ち、谷文晁(たにぶんちょう) 門下の宮津藩士菅沼周鳳(すがぬまのぶひろ)に学びまし た。その後、京都に出て、虎の絵を得意とした京都画壇の 大御所である岸駒(がんく)に入門しました。帰郷後は、郷 里周辺に多くの作品を遺し、画材は広範に及びましたが、 とりわけ蓬莱龍虎(ほうらいりゅうこ)を得意としました。その 中で宮津に遺された最大の作品が、経王寺の本堂中央 間、脇陣の天井に描かれた「雲龍図」です。その落款に用 いられた印章は、菩提寺真照寺にある親の墓石の裏に彫 られた「屏山」の印です。この天井画は、岸駒の代筆者と して、京都市内の黒谷金戒光明寺(くろだにこんかいこう みょうじ)山門の天井画「蟠龍図(はんりゅうず)」を揮毫し たものと、同様の作です。

(問)経王寺 TEL.0772-22-3061



紙本墨画花鳥図・部分

しほんぼくがかちょうず 10紙本墨画花鳥図 二曲一双

片山尚景筆〈真照寺 本堂〉

筆者の片山尚景は、絵を父正信や狩野尚信に学びま した。花鳥図は、落款から尚景が86歳、正徳3年 (1713)の作と分かります。画面右端に松を描き、中央 部に水流を設定して、芙蓉や梅、鶴や鴛鴦(おしどり) を配した狩野派の典型的な大画面花鳥図の作例で す。墓地には、経王寺天井画を描いた和田屏山の親 の墓石があり、天井画のものと同一の「屏山」の印章 が彫られています。

(問)真照寺 TEL.0772-22-3516



みずのみどらにしょうきんず 水呑虎に小金図・部分 8水香虎に小禽図襖・四面 わばへいざん | 日清寺庫裏 |

水呑虎に小禽図は、庫裏書院床の間をコの字型に囲み配置されている屏山作品である 雲中富嶽山水図 | の襖四面の裏面、次の間に配されています。藪の中から水辺に姿を現 し、周囲を注意深く窺いながら今まさに水を呑もうとする虎と樹上のカササギを描いた作品 です。庫裏の書院は、屏山のほかに松川龍椿、西村奇石などの宮津で活躍した絵師の障 壁画で飾られています。

(問)国清寺 TEL.0772-22-3523

百花繚乱に色を添える、歴史的建築物



ほんどう・におうもん ①本堂・仁王門

<如願寺 境内>

如願寺は、万寿元年 (1024) に比叡山の僧皇 慶 (こうげい) 上人が行基菩薩手彫りの薬師如 来像を背負って、この地に至り開いた寺です。 その後、後一条天皇の勅願寺になったと伝わり ます。本堂は、寛文 12年(1672)・宝形造の建 築で、冨田姓大工による最も早い時期の作例と て注目されます。仁王門は、貞享3年(1686) の火災で焼失した後、元禄3年(1690)に再建 された八脚門です。【京都府指定文化財】

(問)如願寺 TEL.0772-22-3309



無村句碑 河東碧梧桐揮毫

<見性寺 境内>

見性寺は、寛永2年(1625)の伝誉上人の創建と伝わり、鐘楼 門(山門)は天明5年(1785)の建築です。与謝蕪村が3年半 逗留し画業に励んだことから、蕪村寺とも呼ばれています。境 内には蕪村を愛した俳人、正岡子規の弟子、河東碧梧桐の 揮毫による句碑が建てられています。

(問)見性寺 TEL.0772-22-4020

12本殿<山王宮日吉神社境内>

本殿は、貞享5年(1688)の建立で入母屋造、桧皮葺の建 築様式です。成相寺をはじめ与謝、丹後地域の社寺建築 を多く手がけた冨田氏による造営で、冨田姓大工の初期の 作例として注目されています。正面の拝殿の奥に5つの社 殿が並列して配置されており、中央に鎮座する本殿は京都 府指定文化財です。春には宮津市指定天然記念物の含 紅桜(がんこうざくら)、秋には石蕗(つわぶき)・山茶花(さざ んか)が境内を彩ります。桜、石蕗・山茶花は智源寺の天井 画にも描かれています。【京都府指定文化財】

(問)山王宮日吉神社 TEL.0772-22-3356



【観光ガイド情報】 京都SKY丹後観光ガイド協会 【問合せ】電話・FAX0772-22-4046 細見様方 【料金】2時間3,000円(以後1時間毎に1,000円) 【申込方法】FAX 【期限】1週間前まで、ただし、少人数の場合2、3日前でも可 ※当日申込不可 ★掲載させていただいている文化財については、年間を通してご覧いただけます。